



 VOL.06

新しいタイヤ

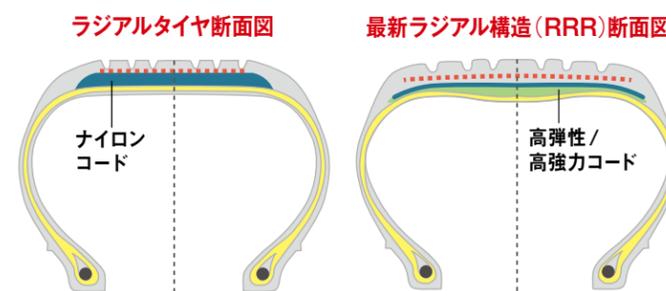
村松謙二(編集部)=文
Text by AGORA
高嶋佳代=撮影
Photo by Kayo Takashima

JALボーイング787に採用されたブリヂストン社製造の新しいタイヤは「Revolutionarily Reinforced Radial」、通称「トリプルアール」と呼ばれるタイヤだ。安全性が向上し、重量も軽減され、環境にも配慮されている。今回はこのタイヤの詳細を見ていこう。

ブ リヂストンは2004年にボーイング認定サプライヤーとして契約を締結、08年から供給を開始した。同社は09年から3年連続で「ボーイング・サプライヤー・オブ・ザ・イヤー賞」を受賞している。この航空機用最新ラジアルタイヤ「Revolutionarily Reinforced Radial」は、高弾性・高強力コードを内部構造に使用し、異物を踏んでもダメージを受けにくく、傷がついたとしてもより壊れにくい性能を持ち、安全性が向上した一方で軽量化も実現。従来のタイヤ同様リトレッド(表面張り替え)が可能であり、環境にも優しい。

また許容スピードは235mph(約378km/h)とされる。つまり、速度・重量・熱に耐えながら、同時に軽量化も実現しなげばならない。ブリヂストンはこの相反する条件をクリアできる数少ない企業である。現在ブリヂストンの世界シェアは100席以上の民間航空機で、約40%となっている。

ボーイング787-8のタイヤの本数は主脚8本、前脚2本。サイズは、メインタイヤで50×20・0R22。つまり、タイヤ外径50インチ、タイヤ幅20インチ、ホイールサイズが22インチ。ノーズタイヤで40×16・0R16、外径40インチ、タイヤ幅16インチ、ホイールサイズが16インチである。トリトレッドパターンは、排水性を一番に考慮した6本のストリートグリップ。トリトレッド面を張り替えることで再生利用可能、約350回の



資料/ブリヂストン

離着陸でリトレッドを実施、約3回のリトレッドが可能となっている。製造は久留米工場と東京工場で行っている。